

人と自然:環境思想セミナー vol.30

自作について

石上純也 建築家

2010.5.21 fri 15:00-17:00

総合地球環境学研究所・講演室

plants & architecture While the formulation architecture-and-landscape typically suggests buildings within a larger encompassing environment, I have chosen to consider them both the same level. Here the plants present an environment of nearly the same scale and equal value as the built structures — a new way to sum up architecture, I would like to believe. Neither designing from plant or nature themes, nor again laying down rigid artificial constructs as in a formal European-style geometric garden, no one element denies or overshadows any other; rather the non-hierarchical relationship is more abstract, though in a way that eschews relative values born of comparisons natural versus man-made so as to home in on something more essential in architecture. Instead of regarding lakes and rivers and hills and forests and fields as far from the built environment, I am seeking ways to design so that nature comes close enough to be indistinguishable from architecture — the idea being to give equal care and attention to creating architectural and natural spaces. Blurring such boundaries allows us to live in undivided proximity with everything else in the environment — a new, more inclusive vision of architecture that transcends rigid concepts of the city. Subtle and supple spaces that imperceptibly bridge architecture to the things around us.

《plants & architecture》建築とランドスケープとの関係という、一般的には、建築とそれをとりまく大きな環境というニュアンスになる気がしている。そのような関係というよりは、環境を建築と同じスケールで考えてみる。ここでいう「plants」とは、建築に近いスケールの環境の総称である。湖や川や山や森や草原などの自然環境を、建築からかけ離れた遠いものとしてとらえるのではなく、それらを建築に近いものとして区別なく同時にデザインする方法を模索したい。建築をつくることと自然環境をつくるのが等価になるような考え方であたらしい生活環境を計画する。そのような考え方でデザインすることは、植物をモチーフにしてデザインすることでも、自然をモチーフにしてデザインすることでもなく、また、幾何学的な様式庭園のように建築的な人工性をモチーフにするわけでもないような、どちらかの存在を否定したり、どちらかが上位になるようなヒエラルキーを与えたりしない関係性のなかであたらしい抽象性を見つけていくことにつながらないだろうか。その抽象性が、自然と人工というような比較のなかで成り立つ相対的な価値観を超えて、環境と建築が共通してもつ本質的な部分になにか近づいていくようなものになる気がしている。それぞれの境界線をどこまでもぼやかしていく方法。ぼくたちがぼくたち以外のものたちと隔たりにく生活できるような環境。そのことで生まれる都市の概念をこえるようなあたらしい建築の集合のしかた。そういうことから現われてくる、とてもあいまいでやわらかな空間が、建築とそれ以外のものとのを気づかないうちに、いつの間にかつなげていく。

人と自然：環境思想セミナー vol.30

自作について

話し手：石上純也（建築家）

聞き手：鞍田崇（総合地球環境学研究所・上級研究員）

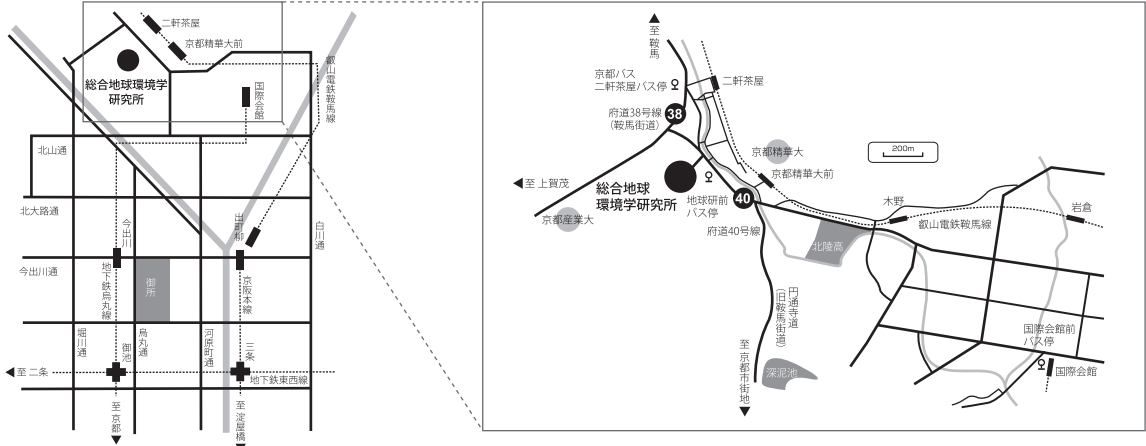
2010.5.21 fri 15:00-17:00 総合地球環境学研究所・講演室 聴講無料・申込不要

石上純也

1974年生まれ。建築家。
 2000年東京藝術大学大学院美術研究科建築科修士課程修了。
 2000-2004年妹島和世建築設計事務所勤務。
 2004年石上純也建築設計事務所設立。
 2008年第11回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展にて日本館で個展。
 2009年日本建築学会賞作品賞（神奈川工科大学KAIT工房）を受賞。
 2005年キリンアートプロジェクトで「table」、2007年東京都現代美術館「Space for Your Future」展で「四角いふうせん」を出品。
 著書に『ちいさな図版のまとまりから建築について考えたこと』（INAX出版）がある。



ACCESS MAP



- JR「京都駅」・近鉄「京都駅」・阪急「烏丸駅」より
 京都市営地下鉄烏丸線に乗り換え、「国際会館」下車。国際会館駅バスターミナル2番乗場から京都バス40系統（京都産業大学ゆき）もしくは50系統（市原ゆき）にて（約10分）、「地球研前」下車スグ。
- 京阪「出町柳駅」より
 叡山電鉄鞍馬線に乗り換え、「京都精華大前」もしくは「二軒茶屋」下車、徒歩10分。

※マイカーの利用はご遠慮ください。

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所(地球研)
 〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457番地4
<http://www.chikyuu.ac.jp>

お問合せ | 環境思想セミナー担当 鞍田崇（地球研・上級研究員）
 075-707-2382 fax.075-707-2508 kurata@chikyuu.ac.jp

次回予告：vol.31 2010年6月16日（水）「taste 0 味わいの零度」（仮題） 講師：諏訪綾子（フード・クリエイション）